

2011年7月28日(木)

授業中は先生の目を見て真剣に授業に臨もう
効果の上がる授業の受け方とは

開倫塾
塾長 林 明夫

Q：前回(第5回)の「ノート」についてのお話は面白かったですね。

- (1)授業中に先生が話した内容や黒板に書いたことは一語残らずすべてノートにメモする。そのノートは、あとで勉強しやすいように、授業中または授業後に整理する。
- (2)そして、内容を十分「理解」した授業のノートは、あとでスミからスミまで一語残らず覚え切る。
- (3)そのときに役に立つのが、「音読」「書き取り」「計算・問題」の「定着のための三大練習」。
- (4)「ノートを取るのは能力」「ノートを取る能力は、上の学校つまり大学や大学院で役に立つ、社会に出てからも役に立つ」。ここまではあまり考えたことがありませんでした。

A：(林明夫：以下省略)

- (1)前回の、ノートについてのお話の内容をよく覚えて下さってありがとうございます。
- (2)そうそう、一つお伝えすることを忘れました。それは、「ノートの大きさ」についてです。ノートにはいろいろな形のものがあります。B版でもよいのですが、私は、開倫塾の塾生の皆様は高校を卒業してから大学や大学院に進学する方が大半だと思いますので、大きめのA版をお使いになることをお勧めします。A版のノートは大きいので、1ページに自由自在にいろいろなことが沢山書けます。
- (3)ノート整理の仕方が上手になれば、こんなに使い易い、また、あとで勉強し易いノートがあるのかとびっくりするくらいなのがA版のノートです。
- (4)授業が終わったあとに、その内容をさらに勉強して、辞書や用語集、参考書で「ことば」の意味を調べたときに、A版ですと広いので書くスペースが沢山あり、十分に書き写すことができますよ。
- (5)大きな文具店に行けば売っていますので、探してみてください。「アスクル」でも届けてくれます。

Q：A版のノートですか。わかりました。ところで、授業はどのように受けたらよいのですか。授業の受け方を教えて下さい。

A：(1)姿勢を正し、手を机の上に置き、先生の目を見て、先生のお話を一言も聞き逃さない、聞き漏らさないように真剣に授業を受けることです。また、先生の指示で、実験や観察、グループワークなどのさまざまな授業中の活動に積極的に参加することに尽きます。

(2) そのような態度で「授業」に臨むと、「ああ、このことはこういうことなのか」ということが「よくわかる」「腑に落ちる」、つまり「理解」できます。ものごとの本質を「理解」することに役立つのが「授業」です。

(3) ですから、せっかく同じ授業を受けるのなら、席は先生に最も近い一番前の席が一番よい席、特等席となります。

(4) 一番前の席で授業を受けると、自分のすぐ前で先生がお話をして下さっていますから、先生の声はよく聞き取れるし、先生が黒板に書いている文字や図なども遮るものがありませんので、よく見え、すべてノートに書き写すことができます。先生の表情もよくわかりますので、何が大切なのがよくわかります。

(5) クラスの後ろのほうに着席すると、先生の声が聞き取れないこともあります。前のほうの人の身体に隠れて、黒板に書いてある内容がよく見えないこともあります。先生の表情が、遠くてよくわからないこともあります。

(6) 一番前に着席したときと、後方に着席したときとでは、授業中の「理解」に大きな違いが生じます。

(7) どこに着席するかの大事さがよくわかっている有名予備校の大学受験生や、入学が難しいとされる東京大学法学部の大学生などは、成績のよいトップクラスの人ほど、一番前の席にいつも着席するために一番早くその教室に到着しています。

Q：えー、成績のよい人は、早く予備校や学校に行って一番前の席に着席するのですか。すごいですね。

A：成績のよい人ほど真剣ですから、誰よりも早く教室に入り、誰よりも早く今までやったところまでの教科書や教材、ノートに目を通し、今の授業の範囲の教科書や教材を静かに読み、今日はどのようなことを学ぶのかを予習しています。

Q：本当ですか。塾長はなぜそのようなことを知っているのですか。

A：(1) その理由は、この目で、そのような方を今まで数多く見てきたからです。高校を卒業し、私が大学受験をした年は「大学紛争」というものがあり、「東京大学」や「東京教育大学(今の筑波大学)」はじめいくつかの大学は入試がありませんでした。

(2) 私は、現役、つまり浪人をせずに、慶應義塾大学法学部法律学科に入学をしましたが、東京大学の入学試験がなかったため、東京大学法学部を目指していた高校3年生や予備校に1～2年通っていた浪人生が百人以上も同級生にいました。

(3) 私が大学に入学して驚いたのは、びっくりするくらい多くの同級生が授業の始まるかなり前から教室に来て、前の席から座り、モクモクと勉強していたことです。成績のよい人ほど、早くから教室に来て勉強していました。

(4) 何年かして、本郷の東京大学法学部の授業を受けに行ったことがあります。(当時はおおらかで、他の大学に授業を受けに行く人も少なからずいました。私も慶應大学を卒業したあと、司法試験の勉強をしていましたので、2～3年東京大学に通っていました。)

- (5)やはり東京大学法学部でも成績のよい人ほど前の席で先生の講義を聞いていました。その数は、慶應大学の3～4倍。時には、500名以上入る大きな教室が前の席からあつという間にうまり、最後には満席になることもありました。
- (6)開倫塾を創業してしばらくしてから、経営はじめいろいろな勉強をするためにさまざまな勉強会に参加してきましたが、あるときハッと気づいたのは、いろいろな分野で尊敬を集めている人ほど、勉強会の会場に到着するのは一番早いということです。一番早く来て、その日に配付された教材や資料として使われるものに熱心に目を通しておられます。
- (7)私の尊敬する経営者に栃木富士産業の会長や栃木県経営者協会・栃木県生産性本部の会長をおつとめになった栗原義彦さんという方がおられます。栗原会長は、どんな会合にも一番早く到着して一番前の席に着席なさり、その日の資料に熱心に目を通され、講師のお話を熱心に聞き、メモをとり続けておられました。そして、講師の先生のお話が終わったあとに、必ず、大切なポイントにつき御質問なさっておられました。
- (8)このように、優秀な学生も、優秀な経営者も、一番早く教室や会場に到着して、一番前の席で資料に十分目を通し、先生のお話を熱心に聞き、ノートを取り、大事なところは質問をするようです。
- (9)このことに気づいて以来、時間に余裕のあるときには、私も可能な限りできるだけ早く到着して、今までの資料やノートに目を通し、復習をしてからさまざまな勉強会や会合に参加、積極的にノートにメモを取り、先生や参加者の議論にも参加、終わったあとは、ノートを整理し、大事なことは少しでも頭に入れるようにしています。

社会に出てからも、学校で身につけた勉強の仕方は役に立ちますよ。

Q：授業時間の前に、今まで勉強したことを見直したり、その日に勉強する内容を^{あらかじ}予め読んでおく^{とよい}というお話がありました。なぜですか。

A：(1)言い質問ですね。(It is a very good question!!)

2つにわけてお話ししましょう。まずは、授業前に今まで、つまり、前回までに勉強したことを見直すことはなぜ大事かについてお話しします。

(2)新しいこと、つまり本日の授業内容を100%完全に「理解」するためにはどうしたらよいか。もちろん、本日の授業を真剣に聞くことは大事です。

(3)ただ、よく考えれば、本日の授業は、今までに(前回までに)勉強したことがよくわかっていることを前提に、その続き、その次のことを学ぶ場合が多いです。

(4)もちろん、先生は授業の仕方を工夫していますから、今回までの内容を十分に「うんなるほど」と「理解」したり「スミからスミまですべて」身につける、つまり「定着」していなくてもO.K.、大丈夫なように、復習も兼ねた説明を上手にして下さると思います。

(5)ただ、一番よいのは、先生が親切にそのような復習のための説明をして下さらなくても、自分自身で今まで、前回までに勉強した内容について「うんなるほど」と十分に「理解」し、スミからスミまでよく身につけた上で、今回、つまり本日の授業に臨むほうが、今回の授業の内容について100%完全に「理解」することができる可能性は高い、と言えます。

- (6) そのための一番簡単な方法は、授業の前に、教科書などの教材の最初のページから、今まで、前回までに勉強した内容を、ゆっくりでもハイスピードでもよいから、もう一度読み直すことです。「授業」や「自分で勉強」して一度「うんなるほど」とよく「理解」し、そのあと「音読」「書き取り」「計算・問題」の「定着のための三大練習」を繰り返して、一語残らずスミからスミまでほぼ完全に覚えた内容であれば、ゆっくり読んでも超スピードで読んでもあつという間に思い出し、さらに「理解」が深まります。「記憶の痕跡」がさらに深まりますので、「定着」も深まり、より完全に身につきます。
- (7) 今まで勉強したことをほぼ 100 %完全に「理解」し「定着」させた上で、次の新しい内容の「理解」に努めると、新しい内容を完全に「理解」する可能性が高まります。
- (8) これは、「新しいことを 100 %完全に理解するには、それまでに学んだことを 100 %完全に理解し、定着させることが効果的だ」という考えです。
- (9) 難しいことばで、これを「完全学習理論」または「完全修得理論」、英語で Perfect Mastering Theory(パーフェクト・マスタリング・セオリー)と言います。
- (10) 「～理論」というと難しそうですが、成績のよい人の多くが自分でも気づかずに、実際にやっている勉強の仕方です。
- (11) やり方は簡単。「理解」し、「定着」させるという形で確実に勉強したところまでを授業前や時間があるときに、ジーンと読み直すことです。もっとよいのは、周りに人がいないときには大きな声でどんどん「音読」することです。人がいるときには他人の迷惑にならないようにモグモグ声を出さずに「音読」することです。
- (12) 県内で一番難しい高校も、日本で一番難しい東京大学も、難しい国家試験も、このやり方、つまり今までに勉強したことを完全に「理解」し、完全に「定着」、身につけてから、次の新しいところを勉強するという方法で合格を果たした人が数多くいらっしゃいます。

Q : 具体的にはどうすればよいのですか。

A : (1) 今日、例えば 95 ページから 100 ページまでの 5 ページを授業で勉強するとしたら、授業の前に 1 ページから 94 ページまでを大きな声で、または、人に聞こえないようにモグモグと音を出さずに「音読」することです。または、黙読することです。

(2) 今まで何回も、いや、何十回も勉強したところなので、それほど多くの時間はかかりません。

(3) 今は夏休みなので、1 学期に勉強した教科書や教材、開倫塾の夏休みのテキストなどを利用して、ぜひやってみてください。やればやるほど頭が冴えてきます。これを 8 月いっぱいやればどんどん成績が上がり、秋には自分でもびっくりするほどに頭が冴え渡ってきますよ。

Q : なぜ「その日に勉強する内容を授業の前に予め読んでおいたほうがよい」のですか。

A : (1) これは、「予習は何のためにするのか」と言い換えることのできる大きなテーマですね。

(2) 「予習は何のためにするのか」については、「予習は何がわからないかをはっきりさせてから授業に臨むためにするもの」が私の考えです。

- (3) 学校の教科書や開倫塾のテキスト・問題集など、皆様が、今勉強するために通っているところで使っている教材は、これから学ぶところは先生の授業をお聞きするような真剣な態度で、一語一語これほどの意味かを深く、深く考え、読み進める。計算や問題があったら、すべて自分の力でていねいに、ていねいにノートに解いてみる。
- (4) そして、どうしてもよくわからない「ことば」「語句」があれば、「辞書」や「用語集」、各科目の学年別「参考書」を用いてどんどん調べ、「ああ、これはこのようなことか」と「理解」するように努力する。その調べた内容はノートにメモする。たっぷり書ける「A 版」の「大型ノート」は、このようなやり方で予習にとっても役に立ちますよ。
- (5) 自分でいくら考えても、調べてもわからないところはどこかをはっきりさせるのが「予習の目的」だと私は考えます。その自分がいくら勉強してもわからないことを、先生から教えていただくのが「授業」だと私は考えます。
- (6) このようなやり方で予習をすると、先生の授業時間が待ち遠しくてたまらなくなります。
- (7) 栃木県足利市に日本最古の学校「足利学校」があります。今から 500 年以上前の室町時代からある「足利学校」には、「学僧」と呼ばれる学問を志す僧侶、つまりお坊さんが一時は全国から 3000 名も集まり、^{ようしゆ} 座主と呼ばれた当時日本でも有数な優れた先生の教えを受けたとされています。遠くは九州から何十日もかけてやってきた学僧の中には、自分ではどうしてもわからないことがあったので、足利学校で校長先生である座主の教えを受け、よくわかったので、その翌日には故郷のお寺に帰った学僧もいたと言われます。いくら自分で勉強しても、どうしてもわからないことがある。それを教えていただくために、日本で一番優れた先生の元に出かける。予習とは何のためにあるのかを考えるよいヒントも、日本最古の学校「足利学校」にあるようです。
- (8) ちなみに、今、私がお話した「予習とは、自分でわからないことは何かをはっきりさせて授業に臨むためにするものだ」という考えは、かつて東京大学法学部の民法の先生であった星野英一先生から教えていただいた考えです。
- (9) 東京大学法学部に入学してよい成績を取っていた人は皆、この考えで勉強していました。
- (10) もう少しお話しすると、定期テストの前には教科書やノートをスミからスミまでよく「理解」した上で、すべてをよく覚えたほうがよいという勉強の仕方は、東京大学法学部に一番で入学して一番で卒業し、日本の民法学の第一人者と言われた東京大学法学部教授の我妻栄(わがつまさかえ)先生のお考えをベースにしたものです。
- (11) 我妻先生のお弟子さんである星野先生の予習についての考えは、我妻先生の復習についての考えをさらに発展させたものです。東京大学に限らず有名大学の法学部には、自分の恩師の考えをさらに発展させるという「よき伝統」があります。
- (12) 開倫塾で学ぶ塾生の皆様に、この夏お伝えしている勉強の方法は、現在どのような成績でも努力さえすればどんどん成績が上がる方法です。また、今、よい成績を取っている人も、このやり方を参考にしてもらえれば成績はもっともっと上がるというものです。東京大学には 3000 名も合格するのですから、東京大学で勉強したければ、東京大学のトップクラスの人がしていた勉強の仕方を、私が今示した復習や予習の仕方も参考にしながら、小学生、中学生、高校生のうちから少しずつ身につけて下さいね。

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)このように大切な授業ですから、「欠席」や「遅刻」、「早退」、「居眠り」、「私語(おしゃべり)」、「徘徊(うろろうすること)」、「ケータイ」、「ポーツとしていること」はできるだけ避けて下さいね。

特に「私語」は、他の人の「理解」の妨げになります。授業妨害とも言えますので、学校でも開倫塾でも絶対にしないで下さいね。

(2)今回お話した内容の一部は、明後日7月30日土曜日(午前9時15分～25分)のCRTラジオ栃木放送「開倫塾の時間」でもお話しします。周波数は、1530kHz 1062kHz 864kHzですので、ぜひお聞き下さいね。(この文章は、7月28日(木)9時30分～40分に収録した直後に書いています)。

400字詰の原稿用紙で16枚目に入りましたので、今日はこの辺で失礼します。

今日も、ここまでよく読んで下さり、ありがとうございました。少しでもよいですから、参考にして下さいね。

以上